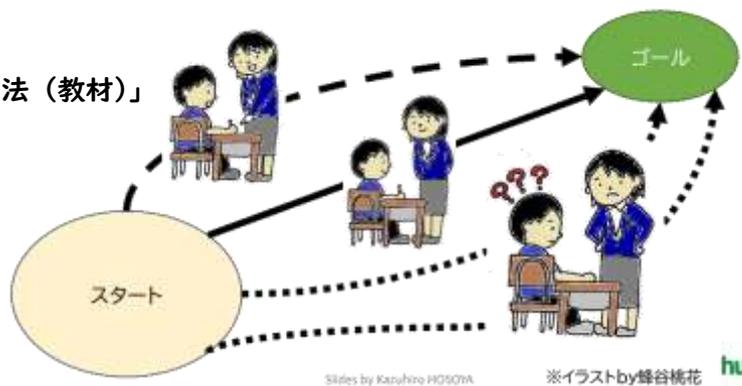


2 みんなが「分かる」、「できる」授業づくりに向けて

「多様な子どもが存在」＝「多様な方法（教材）」

- ※一人一人の解決の方法が異なる
- ※一人一人の理解の方法が異なる
- ※一人一人の理解の程度が異なる



Slides by Kazuhiko HOSOKA

※イラストby蜂谷桃花



① 学級集団づくり（雰囲気づくり）

- ・落ち着いて過ごせる学級集団（ルールの明確化）
- ・間違いや分からないことを否定的に見ない学級集団（分からない、間違いが人間の進歩成長過程）
- ・学び方の違いを認め合える学級集団（個に応じた学び方／解決方法がある）

② 教室・学習環境づくり

(1) 教室環境づくり

- 教室の物理的な環境（環境刺激の量）
 - ・黒板回りはスッキリとする
 - ・授業用の黒板と掲示用の黒板を使い分ける（板書の明確化）
 - ・教卓に余分なものは置かない（**子どもの目線**で不要な物は視界に入れない）

(2) 学習環境の整備

- 教室の物理的な環境（環境のルール） ⇒何をどこに？何を準備？を明確に示す。
 - ・持ち物の置き場を明示 ⇒ランドセル、靴箱など・・・
⇒そこ... ってどこ？
 - ・個人の持ち物の整理を明示 ⇒机の中を箱で仕切る。
 - ・プリントの整理の仕方を指導 ⇒ファイルに入れる。
 - ・授業の準備物を**視覚的**に示す。 ⇒授業が始まって準備ができていない子はいませんか？
⇒授業終了後の日直の仕事

視覚的に示せば良い・・・と言うものではない。
⇒子どもにとって分かりやすいものでないと意味がない。

【日程表の工夫】

時間	教科	内容
	朝の会	朝の会 おはようございます
1	国語	P10～P20
2	算数	P35～P38
	中休み	中休み 着替えておく
3	体育	体育館でサッカー
4	社会	P18～P21
	給食	給食 1班が当番
	昼休み	昼休み 体育館が使用可
5	理科	理科室で実験

より分かりやすく

③ 授業づくり

(1) 授業の見通し（この時間の見通し／学習の手順／終わりはどこ？）

- ・ 授業目標の**共有化**／**焦点化**（先生は何を求めているのか？）
- ・ この時間の活動を板書で明示
 - ◆ この時間に何を学ぶの？
 - ◆ どの手順で活動するの？
 - ◆ 次に何をやるの？
 - ◆ どこで終わりなの？

(2) 指示と説明＋独り言？（抽象的な指示、量）

- ・ 指示の具体性（言わなくても分かるよね？ 子どもが何をすればよいのかが分かる）
- ・ 指示の前置き（大切なことを〇個、言います）
- ・ 終わったら何をやるのかを事前に明示
- ・ **1つの事に対して何通りもの教示を心掛ける。** ※**言い方（説明の仕方）を変えて教示**

④ 分かりやすい視覚的手がかり（子どもが分かる視点）

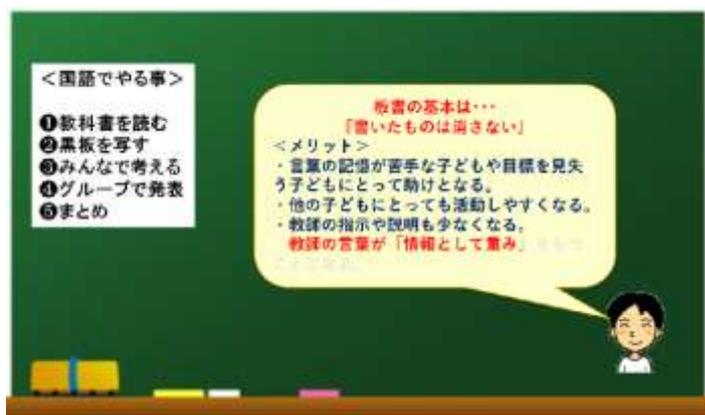
○ 板書の工夫

- ・ 「め（めあて）」「ま（まとめ）」はよく使われている。
- ・ 書いたものは消さない。
- ・ 書き方を工夫する。
 - ※ 子どもから見て分かりやすい板書
 - ※ 教師の板書と子どものノートは別物
 - 子どもは黒板を再現しているわけではない。

※ 黒板とノートは縦横のサイズが異なる。

○ 子どもに操作させることの重要性

- ・ 手を動かして確認してみる（**動作の感覚を活用**）
- ・ 「ICT」のメリット／デメリットの確認 ※ 発展問題として端末の活用



⑤ 個の特性に合わせて「基礎」と「発展」（授業展開）

- ・ ワークシートの工夫
- ・ 理解の程度に合わせたヒント
- ・ 学習量／作業量の工夫
- ・ 「全員が取り組む問題」と「チャレンジ問題」
- ・ 早く終わった子どもに対する次の課題

・ 細谷一博（2023年）「ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり」（第3回管理職のための特別支援教育に関する研修会）スライド資料から引用